

## 【臨床・研究】

## 認知症疾患医療センター設置前後の 外来状況について

つぼ うち けん ふじ き りょう さ とう みき お  
 坪 内 健 藤 木 僚 佐 藤 幹 雄  
 かさ はら きょう すけ くら まし しん じ お ち せい こ  
 笠 原 恭 輔 倉 増 伸 二 越 智 斉 子

キーワード：認知症疾患医療センター，地域型，初診患者，外来

---

### 要 旨

---

2015年10月1日に当院に設置された地域型認知症疾患医療センターの設置前後1年間の外来初診患者の内訳を検討した。65歳以上の初診患者数は、それぞれ375人と361人でほとんど増減はなかった。しかし、その内、認知症患者は48.0%から59.8%に、紹介患者は39.7%から51.1%に、主訴がもの忘れの患者は15.7%から25.2%に上昇し、これら3つの指標が設置後に約10%増加した。紹介患者の増加は他院との連携の強化を、もの忘れの精査目的の患者の増加は精神科病院に対する抵抗感の低下を示すものと考え、認知症患者の増加以外の波及効果が出ていることが示唆された。初診患者の約1/5は入院または入所中の患者であり、引き続き病院や施設との連携の強化が必要であると考えられた。尚HDS-RとFABの平均値を見る限り、設置前後で認知症の重症度に変化はなかった。

---

### はじめに

認知症疾患医療センター（以下、センター）は、1）認知症の診断・治療を担う専門医療機関，2）研修や啓発活動を担う情報センター，3）医療と介護の連携拠点などの役割を期待され，厚生労働省が2008年から設置を推進している機関である。島根県では，2011年9月1日に島根大学医学部附属病院に最初の「地域型」センターが開設され，

県内の関係者の連携会議や認知症サポート医のフォローアップ研修などを催し，県内の認知症の医療・介護の連携を牽引してきた。2015年8月1日に同センターは「地域型」から「基幹型」センターに移行して再スタートしている。続けて2015年10月1日に業務開始したのが，東西2カ所の「地域型」センターである。これに2カ所の「地域連携型」センターが加わり，2017年現在，県内には5カ所のセンターが設置されている（表1）。今後は各種センターがそれぞれ連携，情報交換をしながら，期待される機能を担い，更に重層的かつ多面的な認知症ケアの連携システムを築いてい

Ken TSUBOUCHI et al.

社会医療法人正光会 松ヶ丘病院

連絡先：698-0041 益田市高津4丁目24番10号

社会医療法人正光会 松ヶ丘病院